



「お話の世界を絵にしよう」

2月10日に行われた「動く巨大絵画制作」での1コマです。オリジナルの紙芝居「てしかが現代民話」を見た摩周丘幼稚園(鈴木幸栄園長)の園児が、お話の世界を表した動く木板への色付けに挑戦。思い思いの色の絵の具を手し、夢中で色を塗りました。

(関連記事25ページ)

むかしむか史(293)

てしかがが歴史写真館 167



湧水と水草

恵みの水 郷土の自然 12 ～阿寒国立公園指定80周年～

はるか昔、屈斜路火山が噴火を繰り返し、火山の中央部が陥没して、徐々に水がたまり屈斜路湖が作られた。その後、摩周火山が噴火し摩周湖の原型となる地形ができ、7,000年の歳月をかけて水をため現在の姿になった。

弟子屈は火山活動による大地が広がり、屈斜路湖の外輪山はゆるやかな稜線を描き、そのまま湖底につながり、平均水深28mと広く浅い湖となる。摩周湖は急な斜面に囲まれ、斜面から一気に最大深度211mまで続いている。

二つの湖は相似形だが、それぞれ火山の影響を受けて水質に違いがある。屈斜路湖は硫黄山の酸性による影響で、湖の一部は酸性のpH2を示すが、周囲約57kmの大きな湖は、自然浄化作用により湖全体としては中性となる。摩周湖は活火山で、湖底より温湧水が湧き出し、湖全体に溶け込み摩周湖の特徴ある水を生み出している。

屈斜路湖から流れ出る釧路川は、広大な釧路湿原を潤している。摩周湖は直接流れ出る川はなく、外輪山周辺に湧水地が点在しているが、それぞれの湧水は水質が異なっている。屈斜路湖・摩周湖の水は道東地域の大切な水がめの役割を担い、私たちの生活の基本を支えている。

弟子屈に豊かな水があるのは、透明な空気があり、水が集まる集水域という地形、保水力のある土壌と自然森が広がっているからである。これからは水の時代といわれている。「私たちは、この水に恵まれている弟子屈を、どのように未来へつなげることができるのだろうか」と思いながら、12回シリーズで紹介した「郷土の自然」を終わります。

てしかが郷土研究会(藤江)

Public relations magazine

2015.3

No.727

てしかが

主な内容

- 3月は町税滞納整理強調月間!!.....②
- 防災ワンポイントコーナー.....③
- 第40回児童生徒読書感想文コンクール.....④
- 臨時職員などを募集します.....⑥
- 4月から「空き瓶類」の出し方が変わります!.....⑧
- 夜間納税窓口開設のお知らせ.....⑯

てしかが 2015.3

毎月1回発行 発行/弟子屈町 編集/まちづくり政策課 ☎482-2913 ☎482-2696
〒088-3292 弟子屈町中央2丁目3番1号 URL <http://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/>

R100 この広報紙には再生紙を使っています